



豪雨災害に思う

ぼたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘

九月の関東・東北豪雨災害にお見舞い申し上げます。

我が家の裏の巴波川は、あと1mで堤防を越えるまで水量が増えました。また、用水路は水が溢れ出し道路に流れ出していました。とても恐ろしい思いをしました。中地区においても、床上浸水や車や農機具などの被害を聞き、鎮痛な思いです。

時として自然は私たちの想像を超えて牙を向くことを、今回の豪雨で改めて身近に感じました。しかし一方では、自然は多くの恵みをもたらします。農作物の収穫やホタルなどの生物にも自然の恵みは不可欠です。このところの異常気象も、私たち人間が便利さを追い求め、自然を大切にしなかったからということも言われています。これを機会に、今一度自然の大切さを考えさせられました。

今後も中小の子供たちに、ホタルの活動を通して自然を守っていく事の大切さを伝えていきたいと思います。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

実りの秋！”豪雨にも負けない“ふるさと中地区

中小学校長 市村 栄美子

この度の豪雨で未曾有の被害が中地区にも起こりました。11日朝、学区を巡回したところ、至る所に豪雨の爪跡が残っていました。床下だけでなく床上まで浸水被害、自家用車・農機具等の被害、収穫間近の農作物への被害等、大変な状況でした。被害に遭われた地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。（明治35年9月28日の暴風雨のため、全校舎潰倒、約1ヶ月間臨時休校という記録が学校にあります。）

9月14日（月）に実施した稲刈りの前に、私は、子ども達に次のような話をしました。「豪雨で稲が水に浸かり見えなくなってしまいました。みんなで、植えた大切な稲は大丈夫か、とても心配していました。ところが、水が引いた後には、稲がしっかりと立っていました。暑い夏を越し、丈夫な根をしっかりと張っているからです。豪雨にも負けない生命力を感じるとともに、お世話になった方々への感謝と収穫の喜びをもって稲刈りをしましょう。」

5月1日に田植えをして、137日目。地主の松本様、田んぼの学校の増田様には、水の管理や除草等、大変お世話になりました。また、当日は、玉野辰夫自治連会長様はじめ地域のボランティア、保護者の皆様にお手伝いをいただき、無事に稲刈りを終えることができました。多くの皆様のご協力に対し、心より感謝申し上げます。

田んぼの学校だより

5月1日に田植えをしてから、9月14日の稲刈りまで田んぼの水の管理・除草・肥料の施しなどの数々の作業を経てお米ができました。中小の児童・学校・地域ボランティアの方々の協力の賜物です。

はじめてのたうえ

1年

はじめてのたうえて、どきどきしました。つちがぐにやぐにやしてつめたかったです。さいしょは、じょうずにできなかったけれど、6ねんせいがないにしておしてくれたのでたのしくできました。

おおきくなるのがたのしみです。



無事にできた稲刈り

3年

9月14日に稲刈りをしました。増田さんが稲の刈り方を教えてくださいました。その後、みんなで稲刈りをしました。地面がぬかっているか心配でした。

田んぼに水がたくさん入ったからです。

でも、無事に稲刈りができて、とても楽しかったです。

えのき祭にお米が食べられるとうれしいです。



五七五 ～ 稲刈りが 無事にできたよ よかったな ～

獲れました139Kg

5月1日に田植えをしてから、9月14日の稲刈りまで田んぼの水の管理・除草・肥料の施しなど、数々の作業を経てお米ができました。中小の児童・学校・地域ボランティアの協力の賜物です。

中小の田んぼで育った稲の脱穀をしました。今年は記録的な大雨で水没した被害にもかかわらず、努力の結晶により今年のお米の収穫量は、139kgの収穫でした。豪雨による水害で、穂まで水を被ってしまった稲だけれど、たくましい実りを届けてくれました。

はでがけで逆さまにして、天日で干した稲の一粒一粒に、おいしさがギュッと詰まった中小米です。

今年も、えのき祭でおにぎり弁当にして、みんなでいただきます。



今年もほたるが飛びました。

ほたるを観る会



イベントで賑わいました。

6月12日から、中地区の恒例行事『ほたるを観る会』がありました。式典では、小山市歌斉唱・森田弘『ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会』会長・玉野辰夫自治会連合会長・市村栄美子学校長の主催者あいさつの後、大久保寿夫小山市長様から祝辞を頂きました。

そのあと中小6年生のほたる活動実践発表がありました。先輩の研究を受け継ぎさらに新しい取り組みがなされ素晴らしい発表でした。卒業生がほたるの会発足時の思い出や『ほたる観る会』での体験を発表してくれました。

各種イベントに保護者や祖父母の皆さんが会場にお出でになり展示物をご覧になったり、ほたるの折り紙づくりをしたりほたる籠編みなどに参加しました。

ほたるを観る会がいつまでも続きますように 4年

ぼくは、ほたるを観る会に参加し、改めて中地区のすばらしさを感じました。ピオトープで飛んでいるほたるをみた時の感動は今でも忘れません。一生懸命に育ててきた人達の心が一つになったと思いました。ほたるは、中地区の自慢です。いつまでもほたるを観る会が続くように守っていきたいです。



～ ほたるの折り紙 ～



～ ホタルンとはいポーズ！ ～

楽しかったほたるをみる会

2年
ほたるをみる会では、体いくかんの中で6年生のはっぴょうを聞きました。そだててきたようすがよく分かりました。つぎにほたるかご作りやおり紙をしました。ほたるかごはむずかしかったです。外に出て、ほたるを見ました。とてもきれいでした。来年もまた見たいです。



～ 夜店には行列ができ、瞬く間に完売！ ～



～ 卒業生からのメッセージ発表の人たち紹介 ～ ～ ほたる籠作り ～



「ほたるを観る会」に参加して

中地区自治会連合会 会長 玉野 辰夫

今回初めて「ほたるを観る会」に参加をさせていただきました。子ども達が熱心にほたるについて観察し、飼育してきた成果が研究発表、展示物から感じ取ることができました。この活動を通して、子ども達が自然の大切さ、人を大切に思う心をやしなっていくことと思います大勢の人たちがピオトープのほたるが放つ幻想的な光に歓声をあげ『中地区ほたるを観る会』が、子ども達と地域の絆を深めていくのを感じ取ることができました。

ほたるの光はなぜか人の心を和ませ郷愁を誘います。「ほたるの光、窓の雪、文読む月日重ねつつ…」という唱歌がありますが、この歌のように、いつの日かほたるの光で本が読めるほど、ほたるがたくさん増えるといいですね。

巴波川にほたるの飛び交う光景が見られるよう地域の皆さんと共にこれからも応援していきたいと思ひます。

これまで勉強したことが役にたつたと思ひました。卒業生や地域の人達がいろいろ教えてくれたおかげです。また、昔みたいにはほたるがいっぱいとびかうように、次の6年生にがんばってほしいと思ひます。



～ 土入れ ～



～ ミニピオトープ完成～



～ ほたるの成育調べ～

うずま川にほたるをよび戻そうと5年生のころから研究をしてきました。初めにほたるの体のことや成育のことを調べました。6年生からはほたるの住みやすい環境やカワニナの飼育のことなどを教えてもらいました。6年生の研究はぼくたちの研究に生かすことができました。6年生の研究は3学期にはピオトープ作りが始まりました。草を植えた、石を入れたりして水を流したけれど、一回目は土がくずれて失敗してしまいました。次は土を多めにし、やつと成功しました。すぐうれしかったです。その後、幼虫を放流しました。6年生になり、五月にはほたるがとんでいるのを確認できました。ぼくたちのピオトープは成功したんだと思ひました。

ほたるの研究について

六年

新井さんから教えていただいたこと

五年

十月二日に新井さんの家に行きました。新井さんの家に行つて分かつたことは、カワニナのエサはニンジン・キャベツ・ハクサイで、ホタルの幼虫にとつて一番よい温度は十六度だということ。新井さんの家へ行って、ホタルは温度・水質・環境に常に気を配らなといけないせん細な生き物だと分かりました。みんなで協力してうずま川にホタルを呼び戻したいです。



うずまのほたる 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・熊倉 悦雄・荒川 英紀
安斎 早苗・荒川 日和・上野 敏晴・金子 弘隆

＝ 編集後記 ＝

中小の広報紙編集は、ボランティアの方々や児童達の活動を皆さんに伝えるために、力を合わせて頑張っています。これからも「うずまの螢」をよろしく願ひします。